

**資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録**  
**2012年度 第9回**

**報告題名： 中国四川省成都市における農産物直売所の特徴と今後の展開の課題  
 —平価菜市を事例に—**

|      |         |        |             |
|------|---------|--------|-------------|
| 報告者  | 劉 揚帆    | 日時     | 12月6日 午後3時～ |
| 所属分野 | 農業経営経済学 | 場所     | 第二講義室       |
| 座長   | 志賀 あゆみ  | 議事録担当者 | 井坂 友美       |

**出席者**

長谷部、安江、小山田、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、鈴木、スチン、安部、滝田、タンボウニ、中村、山口、泉井、黄、今井、渋谷、室井、徐、趙、ユニクロス、劉、王偉、井坂、井上、西田、金、伊藤（良）、渥美、伊藤（航）、江守、佐々木

**質疑・応答**

志賀：今回は、成都市における平価菜市を事例にされていますが、平価菜市が成都市で始められた特別な理由はありますか。

劉：研究の背景の通り、価格の高騰と食品の安全性が世間の話題になりました。それを背景にして、低価格の販売を方針に平価菜市が発足しました。

志賀：その話題は中国全体で話題になったものだと思いますが、どうして成都市で？

劉：全国範囲で平価菜市のような店が現われています。でも今回は成都市という範囲で研究することにしました。他の省は民営の平価菜市が多いですが、成都市ではほとんど官営です。なぜ官営が現われるかなというのが気になって。

志賀：他で行われているものと官営で行われる平価菜市のちがいは調べられるのですか。

劉：他の省の平価菜市発足の原因は、実際に調べていません。でも成都市の官営の平価菜市は、高齢者や低収入層に利益が出るという目的で発足しました。発足の目的がちがうと思います。

渥美：合作社に所属している農家というのはどれくらいいるのかということ。合作社の方で契約を破ってしまったらペナルティはあるのかということ。この2つが質問です。

劉：專業合作社は、農家で作った集団です。管理者も平価菜市の販売者も農家です。規模は1000戸くらい。この平価菜市で出荷する生産団体は、全部成都市範囲内の專業合作社です。契約では、責任をどっちがとるかを明確に書いています。だから破ったときは、責任をとるべき側がとることになっています。たとえば品質について検疫を受けますが、これは平価菜市の責任という契約です。

渥美：合作社が出荷した農家にペナルティを課すことになるのですか？

劉：すみません、後で答えます。

長谷部：直売って何のことを言っているのですか。

劉：直売は、流通業者を通過しないまま、生産者が直接店に販売することを言います。

長谷部：日本だったら生産者がいて、販売するけど、それとはちがうの？

劉：生産者が出荷して、流通業者を通じないまま店まで農産物を運びます。販売する人も農家です。農家の団体である專業合作社を通じて、直売は実現しました。

長谷部：平価菜市って直売のことなの？スーパーはちがうんでしょ？

劉：平価菜市は直売所の例です。

長谷部：もうひとつ、自由市場の自由ってどういう意味なんですか？日本とはちがうの？

劉：日本で、仙台の駅前の青葉市場のような・・・でもあそこは、販売している人が生産者なのか小売業者なのかわかりません。

長谷部：あそこはいろいろだよ。卸売業者とかも通じている場合もあるし、生産者が直接売っている場合もあるよね。それと同じような意味なの？

劉：自由とは販売者の自由ではなくて、消費者の自由です。消費者がどの売り場で買い物をするかは消費者の自由です。

長谷部：スーパーマーケットは自由じゃないの？

劉：自由です。みんな自由に買い物できるので、自由市場という名前がつきました。

米倉：ちょっと基本的なことを聞かせていただきたいのですが、「平価菜市」の「菜」は野菜なんですよけど、「平価」っていうのはどういう意味ですか？

劉：「平価」は変わらない価格という意味です。

米倉：なんでこういう言葉が使われるのか。平価菜市をやっているのは成都市だけですか？

劉：全国にあります。

米倉：全国で一斉にこういう試みが始まったということですか。

劉：始まったところは、たぶん南京市です。ここで説明したいのは、平価菜市を研究している人はゼロです。だからこの資料を手に入れる手段は、実際に調査するしかできないんです。だから全国を範囲とするのは無理なんです。

米倉：2011年に突然、中国で始まったんですか。全国でどのくらいのところでやっているんですか？成都是中心的なところなのですか？こういうものが出来た背景は？

伊藤：南京市でも「平価菜市」っていう名前で作ってるの？

劉：あそこでは「直売所」という名前を使っています。

伊藤：南京市の直売所と、成都市の直売所は何か関係があるの？

劉：別々に発足し、展開しました。関連はないです。チェーン店のようなものではなく、成都市だけの企業です。

米倉：要するに、農民が直売するということに意味があるんだけど、そういう試みが2011年頃から全国一斉に始まったってこと？

劉：直売所の歴史は2006年です。南京に1号店があります。

米倉：あなたが調査されたのは150人とありますが、これは成都市の5箇所全部ですか、それとも1箇所だけでですか。

劉：1箇所です。

米倉：そうすると結論のところで、「平価菜市の利用者」と言うけれど、たまたま立地条件が年寄りの住んでいるところだったから、定年退職者がよく利用するということがあったかもしれない。必ずしも利用者の性格を表せているとは限らないという意味では、もう何箇所かデータを取ればよかったかなと思いました。それからスライドの10枚目ですけど、これは農家から成る合作社のことを生産者団体と言っているのですか？

劉：はい。生産者団体は2種類あります。ひとつは專業合作社。もうひとつは農業法人。でも農業法人はここでは2社しかありません。

米倉：ここにある生産者団体とは何なのですか？

劉：專業合作社と農業法人を一緒にして生産者団体と言えらと思います。

米倉：売り場というのは、農民個人が借りるのではなくて、合作社の単位で借りているの？売りに来るのは農民なの？

劉：売りに来るのは、專業合作社のメンバーのひとり。

米倉：そうすると、販売者というのは農民個人というよりは合作社というわけね？あるいは農業法人なわけね？

劉：そう理解していいです。ここで專業合作社と書いたら、農業法人はないというイメージが付きませんが、生産団体と言ったの方がいいかなと思います。

米倉：いずれにしても、農民たちが直接に売るという動きが出てきたのはそんなに昔ではないのね。

長谷部：ひとつだけいいですか。スーパーでは国営企業が多いと言うけれど、写真を見る限りは会社があって団地があって道なりなんだから、わざわざ行かないでスーパーに行って買って帰る。そうすると利用者が多くなるのかなと素朴に思うんですけど。もし値段がそんなに変わらないのであれば、消費者としてはスーパーに寄った方が合理的じゃないですか。

劉：たしかに立地条件から見ると、スーパーの方がいいです。でも平価菜市は、発足のときは辺鄙なところで低価格販売で集客しました。

長谷部：いやどれくらい辺鄙なのか分からないけど、平価菜市の近くに住んでいる人がどういう人なのかとかね。定年になった人はこっちに住んでいるんですか？そういうのは分からないんでしょ？

劉：国営企業の団地の方が定年者が多いみたいです。

長谷部：するともしかしたら、平価菜市は安いのかな？時間があれば安い方に行くよね。

劉：アンケートのときに聞いてみたら、平価菜市のところは老人たちが散歩するコースの周辺です。だからみんなついでにそこで買い物しているみたいです。

長谷部：アンケートを解析するならそういうのけっこう重要なんじゃないの。